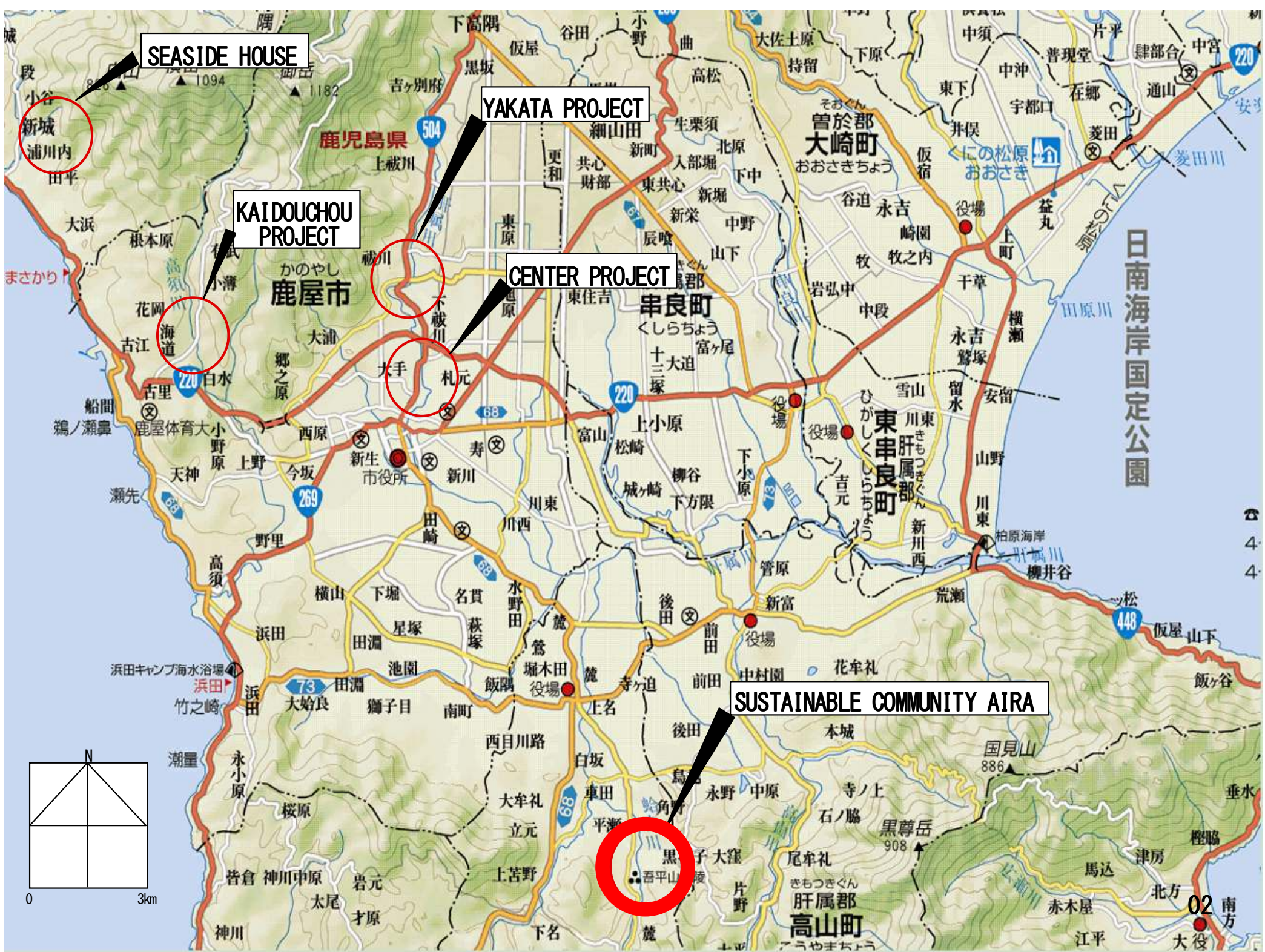


Sustainable Community AIRA

(吾平ユートピア 2003)







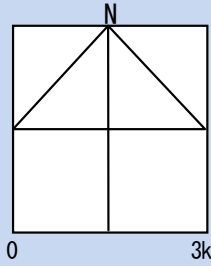
SEASIDE HOUSE

YAKATA PROJECT

KAIDOUCHOU PROJECT

CENTER PROJECT

SUSTAINABLE COMMUNITY AIRA



日南海岸国定公園

4
4

02
南方

Sustainable Community AIRA



世代間 ノーマライゼーション

お年寄(利用者)と若者達、
子供達が触れ合える場所。





吾平ユートピア計画

風力発電

太陽光発電

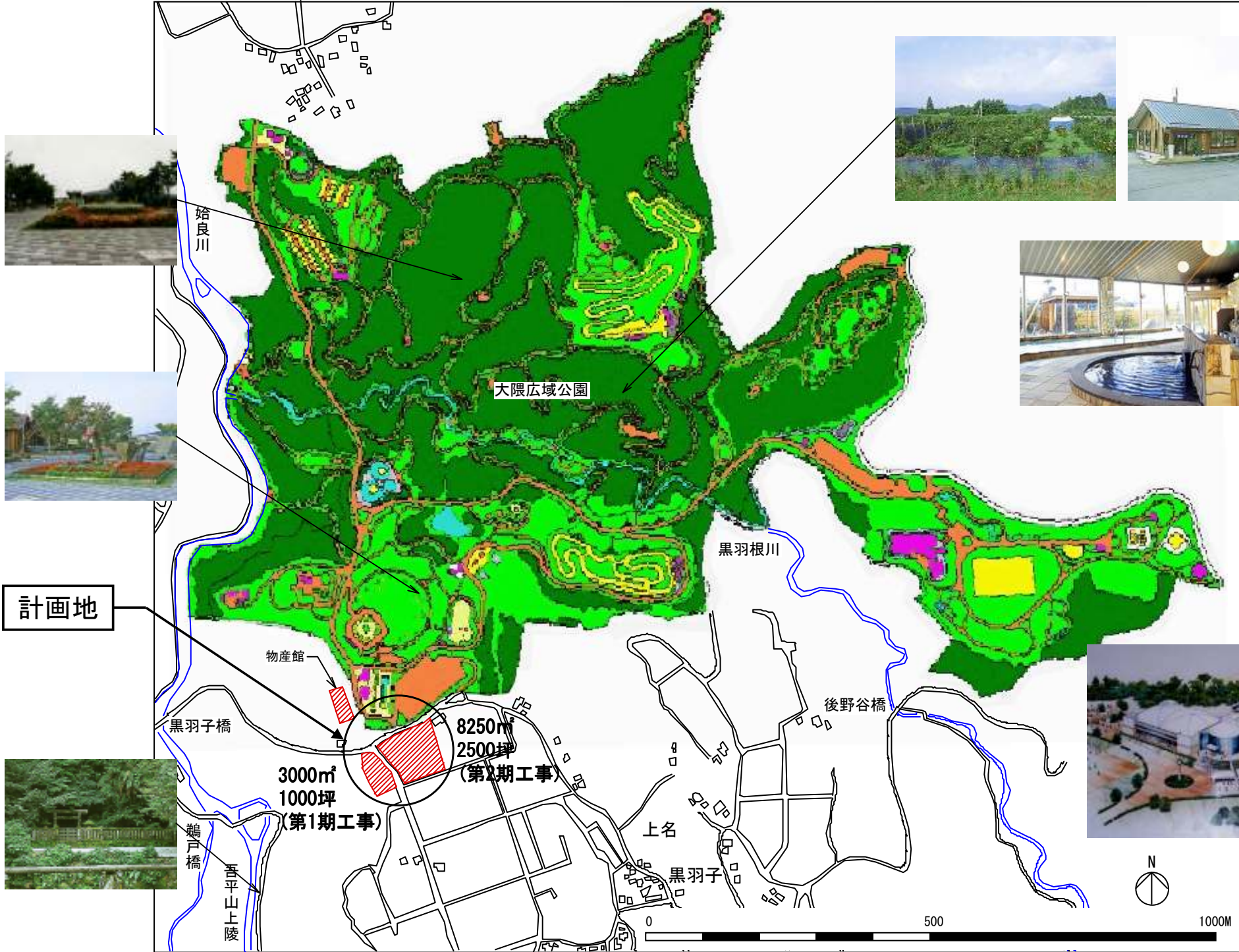
バイオプ

NEDO

環境共生
 自然エネルギーを利用し、地球温暖化防止に役立ちます。
 (CO₂排出削減)
 OMソーラーシステム……暖房や給湯に利用します。
 太陽光発電 …………… 電力に利用します。
 風力発電 …………… バイオプの循環ポンプに利用します。
 自然な環境を造り、周辺地域の環境と共生します。

まちづくり
 人々が集うことで、にぎわいをつくれます。

平成14年度新エネルギー地域導入活動等支援事業



計画地

始良川

大隈広域公園

黒羽根川

物産館

黒羽子橋

後野谷橋

3000㎡
1000坪
(第1期工事)

8250㎡
2500坪
(第2期工事)

鶴戸橋

善平山上陵

上名

黒羽子

500



1000M

Sustainable Community AIRA

(吾平ユートピア計画 2003)

-(1)-

Amenity(周辺環境)

◎計画地は、**吾平山上陵と大隈広域公園**に隣接する自然が豊かな台地部に位置する。
また、計画地周辺には市民の精神的な拠り所となっている吾平山上陵、及びスポーツ、レクリエーション、憩いの場としての大隈広域公園、また、周辺に広がる**観光農園**など人々が多目的に集う地域を形成している。

Site(立地)

◎本計画は、**高齢者のための集住施設を複数建設運営することを目的とする。**
道路を挟んで西側の敷地(約1000坪)を第一期計画工事とし、東側の敷地を(約2500坪)を第二期計画とし、さらに周辺地域に対しても、その波及を考えている。

Medical treatment(療養)

◎高齢者のための集住施設の運営は、この地域で、長い間、高齢者福祉活動に携わっている**社会福祉法人恵仁会**が中心となる。

医療を背景に長期療養施設との連携により、利用者に安堵感を与えることはもとより、同法人に対しては、地域住民からの大きな信頼と期待があり、また今後直面する高齢化社会ともあいまって、このような高齢者の集住施設は、待ち望まれているところである。

Community(地域形成)

◎一般的にこれまでの地域形成は、商業施設、モビリティを中心とする開発や、ニュータウンなどに代表される、いわゆる若者中心によって、その地域を形成し、その集合として都市が出来上がっていた。

本計画においては、その逆に、**高齢者集住を中心に考え、その周りに介護や医療サービス、また、ここを訪れる人々との地域交流の場を作るなどし、高齢者介護を中心とするコミュニティーを形成する。**

その後、医師、ヘルパー、ボランティアなどの人々が生活する住宅や商業、教育などの施設が形成されて行く。

さらにこれらが以後、大きなサイクルとなって、本当の意味で人口構成が自然な都市が生まれる。そして循環する。

Sustainable Community AIRA

(吾平ユートピア計画 2003)

-(2)-

Sustainable design (自然との共生)

◎本計画においては、以下の内容の**環境共生型及び自己完結型の実現**に向けて、多種多様な企業の積極的な参画を募り、また合わせて行政庁の可能な支援を受けることを今後実現に向けた。そして、企業や行政庁のイメージアップにもつなげる。

①積極的に**ソーラーエネルギー(パッシブソーラーシステム)**を取り入れる。高齢者には特に良い、外気取り入れ形太陽光利用空気循環型暖房システムと、**太陽光発電システム**を採用し、**化石エネルギーではなく、自然エネルギーの利用を中心にする。**

さらに雨水利用や、省エネルギー建築設計を取り入れる。これらのことは、コミュニティー全体の自然との共生を中心とした連帯感を生み出すだろう。

②**風力発電施設**を設け、敷地内に人工的に設けるビオトープ内の小川の水の循環設備電源などに利用する。

③雨水及び生活排水を可能な限り再利用し、敷地外部にはなるべく排出せず、**インフラへの負荷を軽減**させる。

④敷地内に自然を回復させるべく、**緑化を積極的に行い、また、農園を一部作る**ことで、高齢者にとってよいとされている園芸療法を展開する。

⑤施設の運営に必要な自動車は、**電気自動車などの低公害モビリティ**をなるべく採用する。また、外部から訪れる人々のアクセスについても、ガソリン車を他にプールする場所を設け、低公害車に乗り換えてアクセスすることも今後の展開として考えられるだろう。

⑥**ゴミゼロ**に向けて、発生するゴミをなるべくリサイクルすることはもちろん、搬入される物資についても、リサイクル可能なものに誘導するようなガイドラインを設ける。当然建築材料についても同様と規定する。

⑦ここに生活する高齢者や、介護する人々と地域の子供たちとの交流を深める。ここで形成される環境や、理念を、**ノーマライゼーション**(人とのふれあい)を通じて、次世代を担う子供たちに伝える。このことは、彼らの豊かな心を育むことにもなるし、高齢者にとってもこのことは喜びにつながるだろう。

⑧コミュニティーが形成されることによって、当然雇用が生まれる。

これらすべての理念や実践は、外部から見学にくる人々や、メディアによって世間に広がる。本計画は、21世紀に重要なテーマである「福祉と環境」に加え、人間にとって重要な豊かなところをはぐくむ試金石になるだろう。





公園

物産館

森

森

1期工事

2期工事

畑(隣地)

畑(隣地)

0 10 20 30 40 50M



